

中国による南シナ海珊瑚礁の埋め立て

漢和防務評論 20140902(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

中国は、南シナ海において武力を背景に、石油掘削、珊瑚礁の不法占拠を行っています。台湾国防部によると、現在中国は、すでに要塞化を図っている珊瑚礁、永興島 (WOODY ISLANDS) の南方 850KM の赤瓜礁で大規模埋め立て工事 (人工島に造成) を行っており、工事規模からみると、戦闘機の発着が可能な基地も建設可能ということです。

台湾は、近く (赤瓜礁から 72KM) の珊瑚礁 (太平島) に軍を駐屯させています。赤瓜礁は南シナ海の戦略的に重要な位置にあります。絶海の孤島なので防衛は困難です。しかし中国にとってセンサーとしては好位置にあります。グーグルの写真を添付します。

KDR 香港特電：

台湾国防部は、2014年5月、中国が UNION REEFS (赤瓜礁) で、サッカー場17個分の広さの大規模埋め立てを行っている」と述べた。中国が公開した写真を見ると、珊瑚礁の島全体で土木工事が行われ、大量の起重機、黄土が見られる。島全体の長さは 5000 メートル(M)、幅は 400 M あり、このような大型工事は、規模から見て、島全体を平にして人工島を造り上げ、必要時には空軍基地を建設する可能性が高い、と KDR は分析する。中国の永興島 (WOODY ISLANDS) 建設の実績から次のことが推測できる：一旦埋め立て工事が完了すると、中国軍の諜報機関、空軍レーダー部隊は、各種長距離探知レーダー、無線電施設、レーダー信号監視ステーションを建設するであろう。そうすると、南シナ海周辺国家は、シンガポールに至るまで、中国による無線電信号監視の範囲に入る。米軍にとっては、中国海軍が南シナ海の前進基地 (注：永興島を指す) を南に向けて 850 キロメートル (KM) 前進させたのと等しくなる。一旦極東有事となれば、インド洋から北上する米海軍艦隊がマラッカ海峡に進入した途端、中国海軍の長距離偵察機及び無線電監視ステーションの監視下に入ることになる。UNION REEFS は、ホーチミン市から 830 KM、マニラから 890 KM、マレーシア西部から 490 KM、クアラルンプールから 1500 KM、マラッカ海峡から 1500 KM の距離にある。つまり戦略的に極めて重要な位置にある。一旦中国が、UNION REEFS 島上に 2000 M の滑走路を建設すれば、SU-30、J-11、J-10 等の大型戦闘機の離着陸が可能になり、マラッカ海峡全体がこれら戦闘機の作戦

半径に入る。ベトナム南部もまた作戦上の縦深性を失う。
なぜ本誌と、フィリピン、ベトナムのアナリストが中国がこの島に飛行場を建設中であると判断したのか？写真を見ると、現在の施工部分は西部に集中している。この部分の直線距離は 4.04 KM である。このほか全て珊瑚礁を土台にして造られ、施工がしやすい。また東北部は港湾である。推測すれば、今後ここは港になる。湾内の直線距離は 1200 M あり、大型駆逐艦の停泊には問題ない。一個のサッカー場の長さが 100 M とすると、17 個のサッカー場の長さは 1700 M である。したがってこの工事は一般的な工事ではなく、軍用埠頭を建設している可能性がある。脅威に敏感なのは台湾である。新たな埋め立て工事の場所は、台湾が支配している太平島からわずか 72 KM しか離れていない。台湾はここに飛行場を建設している。しかし今日の中国海軍の遠海作戦能力を見れば、一旦必要とあれば、中国は太平島を占領し台湾軍を人質にとって交渉することなど容易にできる。

あまり肯定したくないが、中国がこの島に探知距離 500 KM のレーダーを配備すれば、ブルネイ国の全土を含め、周辺の大半の空域が探知範囲に含まれる。これら大型レドームに覆われたものが長距離の対空、対海捜索レーダーである可能性は排除できない。海上において、中国レーダーは、遠距離にある米国空母艦隊、ベトナム、フィリピン、マレーシア海軍の水上艦艇の活動状況を探知できる。

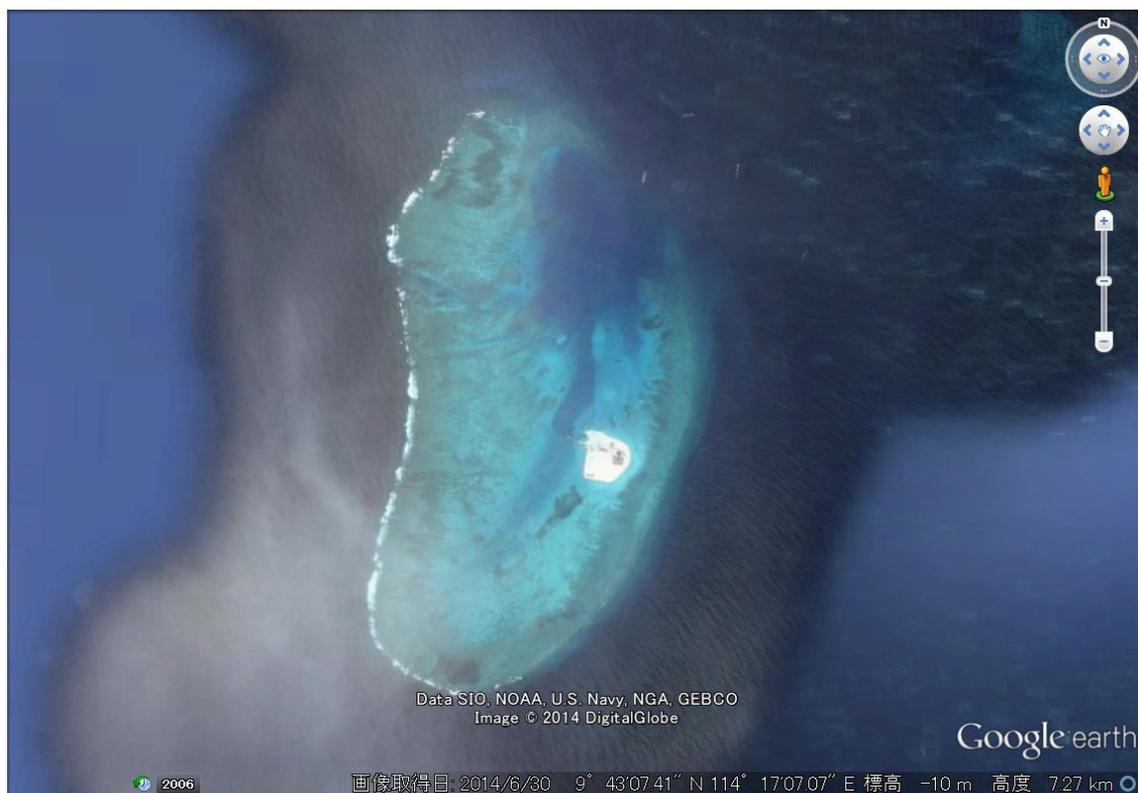
台湾海軍の権威ある消息筋は、KDR に対し次のように述べた：彼らは、近年来中国海軍が多くを努力を払って水中にソナーを配備し、或いは台湾海峡、フィリピン海峡に水中固定式監視ソナーを配備したことを知っている。中国が多くを珊瑚礁の上に人工島を建設しているのは、水中ソナーを配備するための可能性があり、南シナ海のさらに広大な海域で米軍、ベトナム軍、マレーシア海軍の潜水艦活動を監視するためである可能性がある。

中国が現在支配している FIERY CROSS REEFS (永暑礁) は、拡張工事が進行中である。現在、すでに 90 m²の人工島を建設し、島には 5000 トン級の埠頭、ヘリポートが建設された。またレーダー、無線電監視系統及び燃料備蓄庫が設置され、中小型海軍艦艇への補給が可能になった。建設された人工島の上には、それぞれに大型のアンテナ・レドーム及び各種アンテナ群が見られる。いくつかの建築物は、1 個のアンテナ・レドームのコントロールのみに用いられる。

CUARTERON REEFS (華陽礁) 上には、堡壘型の建築物が造られ、建物の内部には高射機関銃、大型のアンテナ等が設置されている。これらの島上には、逐次建築物群が建設され、その後夫々が接続されるという、中国式の方法が採られている。しかし今のところ、最も大型の埋め立て工事は、UNION REEFS (赤瓜礁) であり、夫々の島が武装化を開始している。

各島の上には、相当多くの中国共産党のスローガンが書かれている。例えば”
党に恩を感じ、党の言うことを聞き、党と共に歩もう”等々。

以上



赤瓜礁